【展示紹介】

公益財団法人特別区協議会共催パネル展

「守る・伝える 東京のアーカイブズ ～東京都公文書館所蔵資料の成り立ち」

東京都公文書館　史料編さん担当
瀧澤　明日香

はじめに

東京都公文書館は、令和２年（2020）４月１日に国分寺市泉町に移転し、開館した。これを記念し、当館企画展示室にて開館記念所蔵資料展「守る・伝える　東京のアーカイブズ～　東京都公文書館所蔵資料の成り立ち」を、同年４月１日（水）から６月 13 日（土）まで開催する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症対策により、当館は開館と同時に休館となったため、期間内の開催を断念することとなった。

壁面グラフィック

開館記念所蔵資料展と銘打ったこの展示は、一方で、当館にて開催した後、舞台を千代田区飯田橋にある区政会館へと移し、公益財団法人特別区協議会共催パネル展（以下「本展示」という。）として開催する計画を立てていた。本展示は、同年 10 月６日（火）から 11 月 12 日（木）までとしたが、新型コロナ感染症対策の制限等なく開催することができ、区政会館エントランスホールにて多くの方にご覧いただくことができた。なお、当館で原資料を展示する予定だったものについては、パネルにして展示した。

１　展示開催の趣旨

東京都は令和２年４月１日、東京都公文書等の管理に関する条例の施行により、当館は都政の透明化を進め説明責任を果たす基盤となり、また、貴重な歴史的公文書等を永久に保存する施設として、さらに江戸・東京研究と都政史検証の拠点としての機能を果たすことが求められることとなった。このことを踏まえ、本展示は以下のような趣旨で開催するとした。本展示パネル「ごあいさつ」から抜粋してみよう。

開館から半世紀以上の歴史をもつ東京都公文書館は、本年４月、国分寺市泉町２丁目

に竣工した新館へ移転オープンしました。江戸時代から、東京府・東京市の時代を経て現代に至る記録資料を最適な環境で保存し、江戸・東京に関する調査研究の拠点として機能する場として、新たなスタートを切ったのです。

これを記念して、この共催パネル展では、主要な資料を紹介しながら、その資料がもつ歴史的意義とともに、なぜその資料が伝えられてきたのかというアーカイブズ学的な観点からもご観覧いただけるよう構成しております。

このパネル展をきっかけに、自治体の記録資料を守り、伝える営みに関心を寄せていただければ幸いです。

２　展示構成と概要

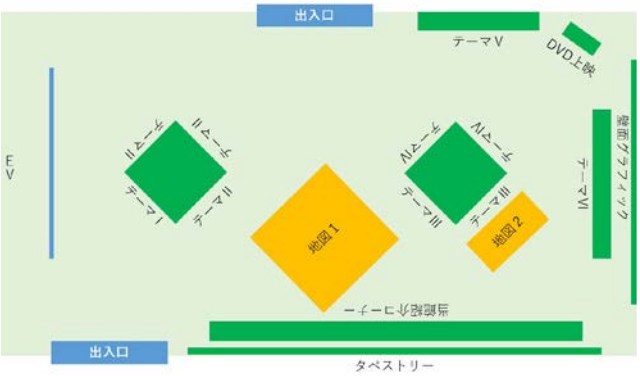
本展示は６つのテーマで構成した。

Ⅰ　東京府・東京市・東京都の沿革と主要資料群　　Ⅱ　江戸時代の資料

Ⅲ　東京府の公文書・資料　　Ⅳ　東京市の公文書・資料

Ⅴ　東京都の公文書・資料　　Ⅵ　個人アーカイブ

このほかに、時代を象徴する錦絵や、絵葉書の中でも色彩豊かで興味を引くようなものを選び、タペストリーにした。それをエントランスのガラス壁面に吊るし、施設の外からもご覧いただけるよう演出した。また、移転開館を紹介するコーナー「東京都公文書館新たなステージに向かって」のパネルを展示し、当館の機能や新施設の魅力を紹介するコーナーを設けた。



展示会場　配置図

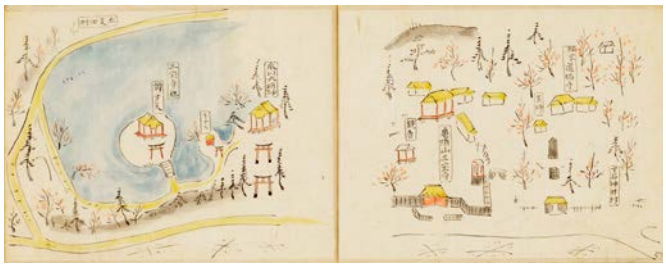
ガラス壁面のタペストリー

Ⅰ　東京府・東京市・東京都の沿革と主要資料群

当館所蔵の公文書は、大きく東京府文書、東京市文書及び東京都文書に分けることができる。また、それぞれの下部機関である郡役所や区役所の文書、市域拡張によって編入された町村文書なども一部含まれるという複雑な構成となっている。さらに、東京市が明治 35 年（1902）に開始した市史編さん事業により、江戸時代の資料や東京の歴史に関する文献や資料が収集されている。

このコーナーでは、東京府、東京市及び東京都の沿革と当館設置までの流れにあわせ、文書・資料の蓄積及び形成過程を表にして紹介した。

Ⅱ　江戸時代の資料　江戸初期－慶応４年＝明治元年（1868）



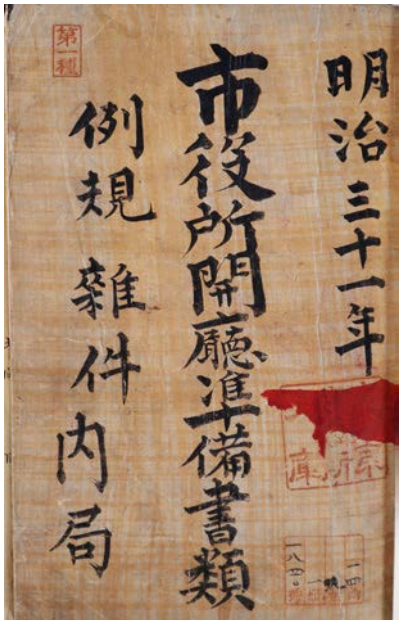
『武蔵野古物　全』（石神井）（請求番号：ＣＲ－１０２）

蔵書印

当館の江戸時代の資料について、作成や伝来の履歴を紹介した。特に各資料に捺されている蔵書印に着目し、作成された経緯やその後どのように利用・保存され伝来してきたかを解説した。紹介資料は、メディアにもよく取り上げられる「旧江戸朱引内図」や幕府による官撰地誌編集の参考として収集された『武蔵野古物』、幕末江戸社会に欠かせない情報が記録されている『藤岡屋日記』などである。

Ⅲ　東京府の公文書・資料　慶応４年－昭和 18 年（1868-1943）

鉄道開業や関東大震災など首都東京の重要な歴史事象に関する公文書等を紹介し、近代的な行政制度が整備されていく過程をたどった。また、「明治期東京府の文書管理」と題して、当時から文書保存規則に則り文書が保存されていることや、防虫対策・湿温度対策など、現在にもつながるような文書保存対策を施していることを取り上げ、アーカイブ的な視点からの資料も紹介した。



市役所開庁準備書類
（請求番号：６０１．Ｄ１．１６）

Ⅳ　東京市の公文書・資料

明治 22 年－昭和 18 年（1889-1943）

東京市役所の開設、「ワシントンの桜」及び後藤新平など度々問い合わせをいただく内容を取り上げた。また、郊外の都市化と東京市域の拡張により現在の 23 区域が成立されていく様子も紹介している。

Ⅴ　東京都の公文書・資料　昭和 18 年―現在（1943-2021）

日本国憲法及び地方自治法の発布、施行直前に行われた昭和 22 年（1947）の選挙ポスターや、昭和 27 年（1952）に起案されたオリンピック 1960 年大会招致に関する公文書、光化学スモッグ等高度成長の弊害であった公害問題に関する資料など多岐にわたる資料を紹介した。戦災からの復興と発展、新たな都市問題への取り組みなど東京都の姿を捉えることができるように構成した。

Ⅵ　個人アーカイブ

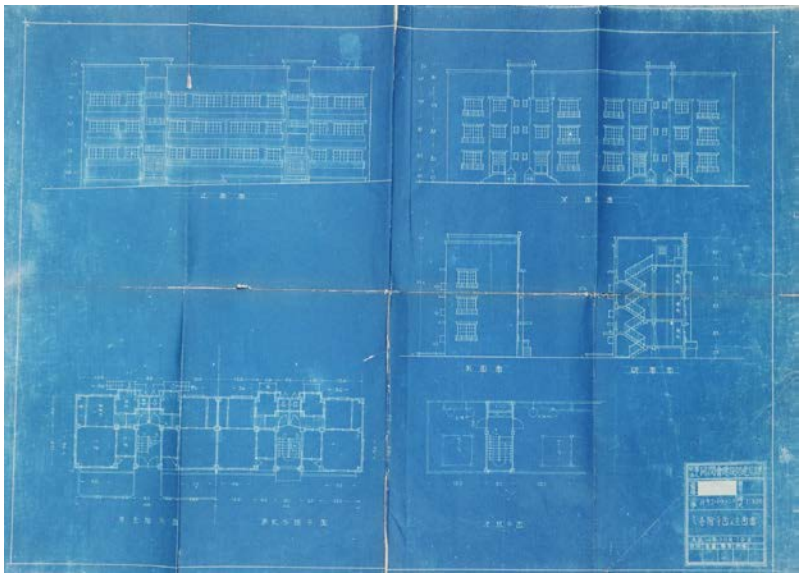
当館では、公文書だけでなく東京都の歴史にとって重要な個人資料についても、内容を評価したうえで寄贈を受け、個人アーカイブとして保存・公開をしている。

このコーナーでは、内田祥三（よしかず）関係資料、渋沢栄一旧蔵松平定信関係資料及び学童疎開を子供の目で捉えた手紙類など、公文書とは違う魅力を持ったアーカイブズの世界を紹介した。

中でも、１万点以上の資料を擁する内田祥三関係資料を中心に展開した。内田は、建

築学者であるとともに、その生涯に数多くの公的な委員を歴任し、日常的に種々の会議に出席していた。資料の中は、これら委員会等で配布された資料や報告書を、内田が特製のファイルへ丹念に綴じ込み、表題を付けて保管していたものが数多くみられる。これらの膨大な資料は、明治から昭和戦後期にかけての建築・都市計画・震災・防災・文化財保護など幅広い分野に関する貴重な歴史的資料として利用に供されている。また、青山同潤会アパートなど既に取り壊された建築物を検証する資料として、今後も重要なコンテンツとなるだろう。

選挙ポスター
（請求番号：２０１５．庁内刊行物．０００９１）



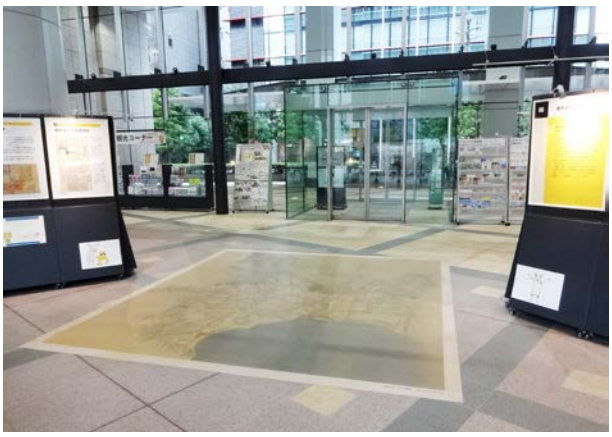
左：同潤会青山アパート平面図（請求番号：Ｕ５２７．８－Ａ－３５５４－３６）
右：楽翁公筆関羽像（定信－００１）

３　パネル以外の展示物

この共催展示はほぼ毎年開催し、基本的にパネル展示としているが、これに加えて大型資料の床面シートを設置し、ＤＶＤ上映を実施している。

今回、床面シートには「伊能忠敬　江戸実測図」「東京府郡区全図」の２枚を用意した。「伊能忠敬　江戸実測図」は縦４ｍ×横３ｍのスケールで、一番目を引き興味深いものになっただろう。一方、「Ⅲ　東京市の公文書・資料」で東京の行政区域が形成されていく様子をパネルにて説明する場所の床面に明治 29 年（1896）「東京府郡区全図」を置いたことで、三多摩編入後の東京の姿をより深く見て取ることができるようにした。

ＤＶＤ上映した映像は、平成 30 年(2018)に開催した企画展「東京 150 年～公文書と絵図が語る首都東京の歴史」の中で製作した「東京 150 年企画展−画像でたどる東京都の成り立ち」とした。この映像は、東京の成立過程を短時間でわかりやすい解説しているため、今回の展示にふさわしいものとして再上映した。



伊能忠敬江戸実測図の床面シート

おわりに

東京の行政区域の形成過程は複雑でわかりづらい。本展示は、当館所蔵資料の中でも代表的な資料を取り上げながら、現在の東京の姿となるまでの過程を丁寧に追った。

また、古文書、絵図・地図、新旧の公文書の他、絵画資料やポスターまで、多様な資料を網羅した。今回の展示内容は、新たなステージへスタートした当館の展示としてふさわしい内容になったと感じている。この展示がきっかけとなり、東京の歴史に興味を持ち当館に足を運んでいただけたら幸いである。

（付記）

この展示は本来、新施設内にて開館を記念する展示になるよう、準備をしていました。しかし、新型コロナ感染症対策により、開館と同時に休館となる事態となり、館内での開催が先行き不透明となっていました。

計画どおりに共催展示として本展示開催に向け進めていただいた特別区協議会様、会場に足を運んでくれたご来場者の皆様に感謝申し上げます。

また、本展示で同潤会青山アパートの画像を提供していただいた藤田紀子様をはじめ、ご協力いただいた皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

※本報告書の著作権は東京都にあります。「私的使用のための複製」や「引用」など著作権法上認められた場合を除き、無断で複製・転用することはできません。